

日米投信概況

日銀ETF売却発表前後の日米での日本株投信日次純流出入 ～100年は高リスク・流動性低下・企業統治問題？日本版SWF(政府系ファンド)や20年案～、 日米ともにゴールド/金ファンドは純流入好調！

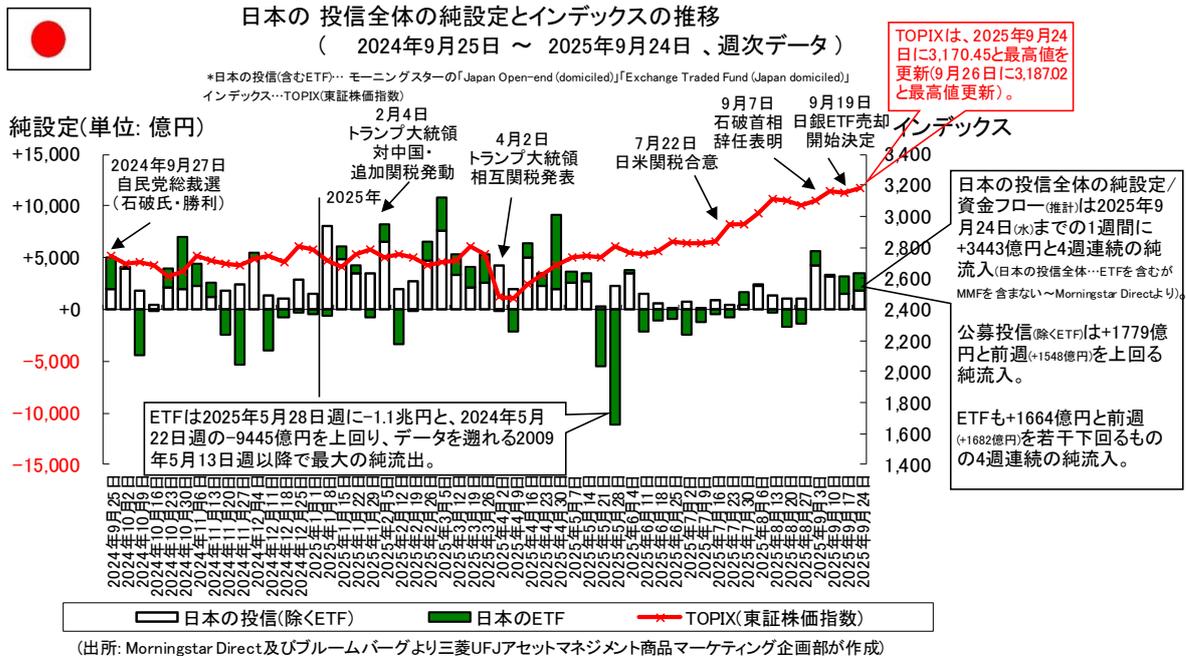
三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp)
窪田真美 (mami1-kubota@am.mufg.jp)

- 日本における日銀ETF売却発表前後の日本株投信日次純流出入～100年は高リスク・流動性低下・企業統治問題？日本版SWF(政府系ファンド)や20年案～、ゴールド/金ファンドの純流入継続！p.1
- 米国における日銀ETF売却発表前後の日本株投信日次純流出入～解約超加速は自民党総裁選前のポジション調整の可能性～、ゴールド/金ファンドの純流入加速！p.6

●日本における日銀ETF売却発表前後の日本株投信日次純流出入～100年は高リスク・流動性低下・企業統治問題？ 日本版SWF(政府系ファンド)や20年案～、ゴールド/金ファンドの純流入継続！

日本籍投信の週次純設定/ファンド(マネー)フロー推計を見ると、2025年9月24日(水)までの1週間に+3,443億円と4週連続純流入(日本籍投信全体…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。

日本籍公募投信(除くETF)は2025年9月24日(水)までの1週間に+1,779億円と前週(+1548億円)を上回る純流入。
日本籍ETFは2025年9月24日(水)までの1週間に+1,664億円と前週(+1682億円)を若干下回るものの4週連続純流入。



日本籍公募投信(除くETF)の9月24日週の純設定額+1,779億円について分類別に見る。純流入1～3位はグローバル株、商品/コモディティ、グローバル株-日本を除く。純流出1～3位はグローバル・特定テーマ/セクター株、インド株、日本株大型グロース。

商品/コモディティの純流入はゴールド/金による所が大きい。 **ゴールド/金は引き続き堅調な純流入**で、9月24日週に+612億円と純流入加速(2025年8月27日週+290億円→9月3日週+272億円→9月10日週+493億円→9月17日週+423億円→9月24日週+612億円、ゴールド/金については2025年5月12日付投信調査レポート

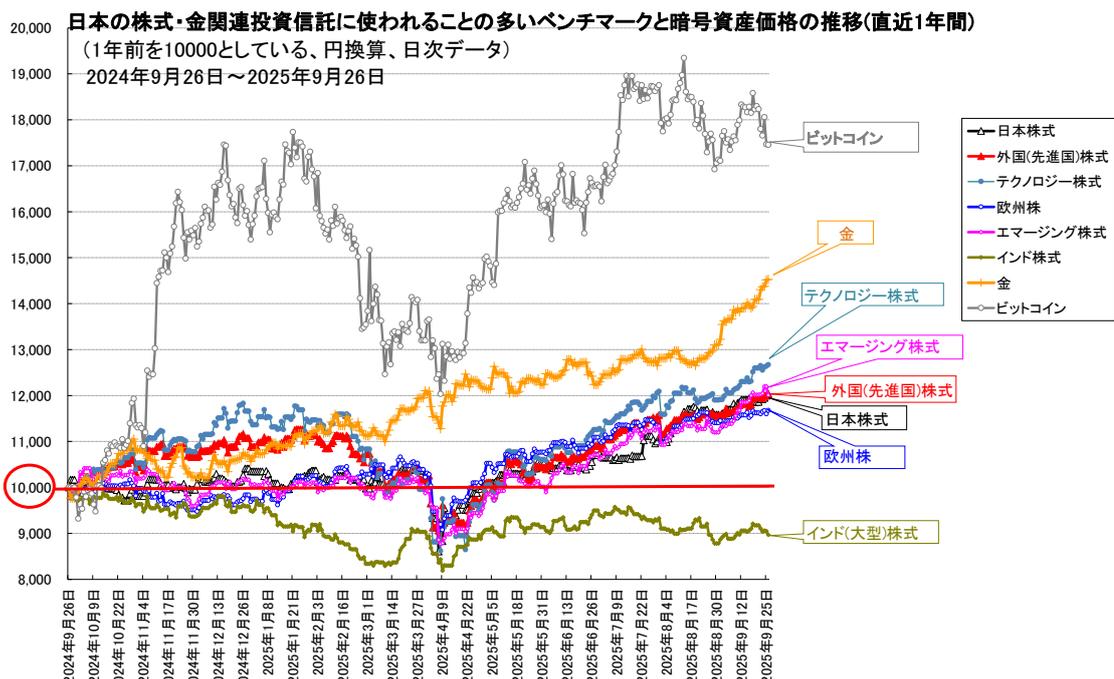
No.438「世界のゴールド/金ファンド月次動向(ETFを含む)月次流出入」~ https://www.am.f.m.f.jp/report/ir/mediate/report_250512.pdf)。 **その後の9月25日・26日は2日間で計+290億円の純流入。**

日本の投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順) 2025-09-24現在
***ETF・MMFを含まない。 週次推計の為、月次のものとは異なる。**

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
1	World Equity	+89,822	+97,653	+543,462	24,357,948	グローバル株
2	Commodity	+33,656	+30,606	+114,393	2,125,705	商品
3	World ex-Japan Equity	+31,112	+37,826	+160,159	14,986,946	グローバル株-日本を除く
4	World Convertible Bond	+24,333	-261	+23,499	95,363	グローバルCB
5	US Equity	+8,248	+37,658	+171,153	28,848,736	米国株
6	Aggressive Allocation	+7,130	+7,196	+31,187	935,178	アグレッシブ・アセットアロケーション
7	World Convertible Bond - JPY Hedged	+6,516	-672	+4,962	125,857	グローバルCB-円ヘッジ
8	Moderately Aggressive Allocation	+4,390	+6,621	+39,376	4,875,373	モデレート・アグレッシブ・アセットアロケーション
9	Japan Large-Cap Blend Equity	+3,776	+693	+5,168	5,896,716	日本株大型ブレンド
10	Moderate Allocation	+3,024	+2,110	+20,727	4,731,370	モデレート・アセットアロケーション
74	Trading - Leveraged/Inverse	-1,711	-12,324	-27,773	697,726	トレーディング・レバレッジド/インバース
75	World Equity - JPY Hedged	-1,965	-1,774	-6,028	589,438	グローバル株-円ヘッジ
76	World Hybrid Security - JPY hedged	-2,139	-739	-5,600	248,554	グローバル・ハイブリッド証券-円ヘッジ
77	World Bond - JPY Hedged	-2,325	-957	-1,622	1,688,628	グローバル債-円ヘッジ
78	Japan Small/Mid-Cap Growth Equity	-3,073	-2,447	-16,394	1,076,429	日本株中小型株グロス
79	Other Equity	-3,073	-930	-6,220	1,491,760	その他株
80	Japan Specialty Equity	-3,226	-2,139	-10,257	948,590	日本・特定テーマ/セクター株
81	Japan Large-Cap Growth Equity	-6,619	-23,491	-35,043	7,875,999	日本株大型グロス
82	India Equity	-7,274	-2,903	-18,302	2,752,402	インド株
83	World Specialty Equity	-8,160	-16,686	-40,703	14,391,130	グローバル・特定テーマ/セクター株
	全83分類の合計	+177,891	+154,753	+1,082,872	158,718,388	
指数名	リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)			
TOPIX (東証株価指数)	+0.79	+0.15	+3.31			
S&P500	+0.58	+1.08	+2.53			
MSCI ワールド	+0.30	+1.01	+2.42			

(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

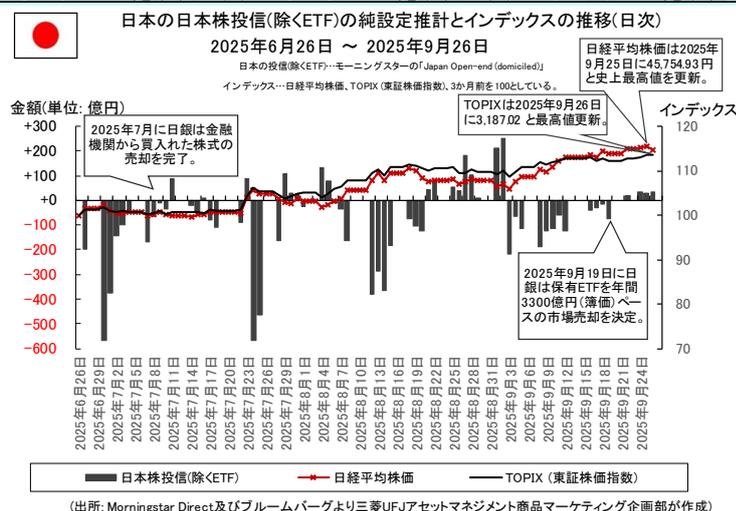
※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

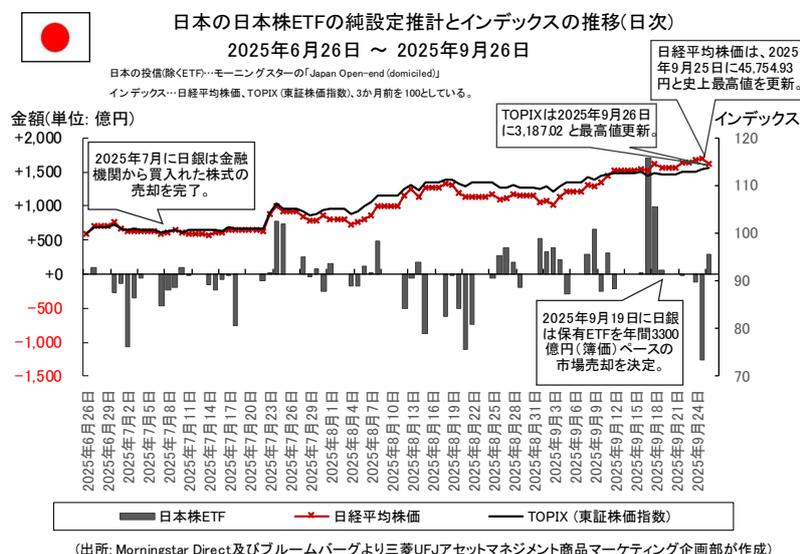
9月19日(金)昼12時40分過ぎ、**日銀がETFを簿価で年3,300億円(時価で年6,200億円)、売却する事を発表**(後述※1参照)、
 株価は一時急落するものの、この日終値は日経平均株価-0.6%安、TOPIX -0.4%安にとどまった。その後上昇、
 日経平均株価は9月25日に45,754.93円と最高値(9月26日の終値は45,354.99円)、TOPIXは9月26日に3,187.02と最高値。

日銀ETF売却発表前後の日本株投信日次純流出入を見る。 日本株投信(除くETF)は9月3日(水)~9月19日(金)に12
 営業日連続で解約超だが、これは株高による利益確定と思われる。9月19日(金)の**日銀ETF売却発表後は9月22
 日(月)+21億円、9月24日(水)+32億円、9月25日(木)+29億円、9月26日(金)+33億円と設定超が続いている。**



日本株ETFは9月16日(火)~9月19日(金)に4営業日連続で設定超で特に9月17日(水)に+1,700億円と大きな設定超。
 9月17日に+491億円と最も純流入の大きかった「NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信(1306)」は9月18日にかけて
 プレミアム傾向にあった(*取引価額<基準価額をディスカウント、取引価額>基準価額をプレミアム)。株高でETFの取引価額が割高
 となっていた可能性がある。ここでETFを売却し基準価額で設定する裁定取引が出たという事が考えられる。

9月19日(金)の日銀ETF売却発表後は日本株投信(除くETF)と対照的に9月22日(月)-21億円、9月24日(水)-117億円、9
 月25日(木)-1,258億円と解約超が続き、9月26日(金)に+289億円と4営業日ぶり設定超。9月25日に-521億円と最
 も純流出の大きかった「iシェアーズ・コア TOPIX ETF(1475)」は9月22日に大きなディスカウントとなっており、ここで
 ETFを購入し基準価額で解約(交換)する裁定取引が出ても不思議ではない(単に大口の解約である可能性もある)。



※1: 日銀ETF売却～100年は高リスク・流動性低下・企業統治問題？日本版SWF(政府系ファンド)や20年案～



2025年9月19日(金)昼12時40分過ぎ、日銀がETFを簿価で年3,300億円(時価で年6,200億円)、売却する事を発表した

(詳細は下記の図表を参照、2025年9月19日付日本銀行「当面の金融政策運営について」… https://www.boj.or.jp/mopo/momodet/mpr_2025/3250919a.pdf、「ETF等の処分に関する決定」… https://www.boj.or.jp/mopo/momodet/mpr_2025/3250919a.pdf)

15時半過ぎの記者会見で植田和男総裁は「受託者選定した上で開始。(「すべての売却に何年かかるのか」に対し単純に計算すれば**100年以上かかる。**)と話した(強調下線は当レポート筆者、2025年9月19日付日本銀行「総

裁記者会見」～ <https://www.boj.or.jp/about/release/sonosidougaku.htm>

日経平均株価は発表を受け急落、13時19分に-807.97円安の44,495.46まで売られた。ただ、需給懸念がそれほどでない事が市場でわかるにつれ急速に下げ渋り、9月19日終値は前日比-257.62円安の45,045.81円。日経平均株価はその後3日続伸、9月25日終値は45,754.93円と過去最高値を更新(9月26日の終値は45,354.99円)。

ETF等の処分に関する決定 (2025年9月金融政策決定会合)

処分の基本方針

市場の情勢を勘案し、適正な対価による

日本銀行の損失発生を極力回避する

市場に擾動的な影響を与えることを極力回避する

「金融機関から買入れた株式」の処分の経験

金融システムの安定確保のために買入れた株式を、市場に大きな影響を与えることなく、本年7月に処分を完了

①「金融機関から買入れた株式」の売却と同程度の規模で市場へ売却

	株式(実績)	ETF	J-REIT
年間の売却ベース*	簿価(時価) 1,500億円程度 (6,200億円程度)	3,300億円程度 (6,200億円程度)	50億円程度 (55億円程度)
市場全体の売買代金に占める売却割合	0.05%程度	0.05%程度	0.05%程度

* 時期の分散に配慮しつつ、各銘柄の保有割合におおむね比例的なたちで売却

② 市場の安定に配慮した仕組み

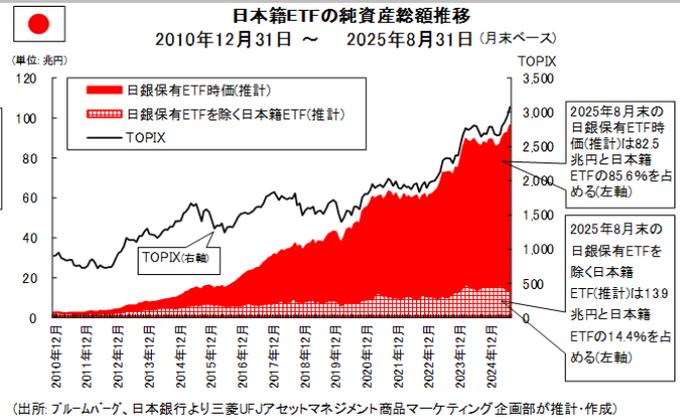
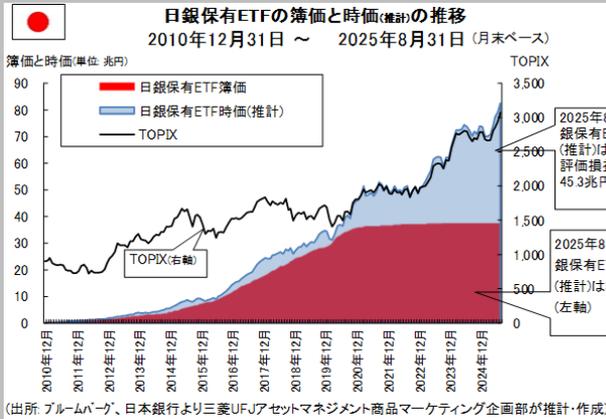
- ①の売却ベースのもとで、市場の状況に応じ、売却額の一時的な調整・停止を行うことができる。
- 基本方針や今後の売却の経験を踏まえ、金融政策決定会合において、売却ベースを見直すことがありうる。

③ 所要の準備が整い次第、処分を開始する予定

(出所: 2025年9月19日付日本銀行「ETF等の処分に関する決定」… https://www.boj.or.jp/mopo/momodet/mpr_2025/3250919a.pdf)

日銀保有ETFの時価は2025年3月末に70兆円で評価益33兆円、2025年8月末に82.5兆円で評価益45兆円、2025年9月26日に86.5兆円で評価益49兆円(3月末の時価と評価益…2025年5月28日付日本銀行発表～ <https://www.boj.or.jp/about/account/m2305a.htm>、8月末と2025年9月26日の時価と評価益…三菱

UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部推計)



日銀ETF売却100年計画について、専門家には問題視、今後の対応を求める声が少なくない。

➤「**焼け石に水だ。** 現実には日銀保有のETFは長期間、**ほぼ塩漬け**の状態が続く。これと平行して企業の自社株買いは増え続ける。少なくとも毎年、日銀が売却する6200億円を上回るのは**ほぼ確実だ。**…(略)…。ETFのストック効果で固定株の割合は上昇し、今後も市場流動性の低下は進む可能性が高い。**株価が上にも下にも飛びやすくなるケースが増える**という意味だ。…(略)…。**政府が個人マネーを株式市場に誘導する傍らで進む市場のゆがみは軽視できない。**」(強調下線は当レポート筆者、2025年9月22日付Quick「バブルふかす『100年計画』日銀ETF売却の盲点(永井洋一)」～ https://moneyworld.jp/news/05_0018184_news)

➤「**リスク資産を中央銀行が大量に抱えるのは健全ではない。** 日銀が事実上の日本株の大株主である現状は**企業統治上も問題視される。**…(略)…。**民間には企業統治上、日銀から分離すべきだとの提案もある。**」(強調下線は当

レポート筆者、2025年9月20日付日本経済新聞「日銀はETF売却を機に正常化の点検を」～ https://www.nikkei.com/article/DKJZQ0K19N5TQZ10C25A9006000_1)

➤「ETF残高は時価ベースでは減らずに、むしろ増加していく可能性もある。…(略)…。日銀のスチュワードシップ責任の果たし方としては、**日銀が保有するETFを運用する投資信託会社のスチュワードシップ評価**を行い、その評価に基づき年間の売却先を決定するというような方法などが考えられよう。」(強調下線は当レポート筆者、2025年9月26日付大和総研「日銀のETF売却と

スチュワードシップ責任」～ https://www.dai.com/jp/report/research/capital_mkt/sectors/20250926_025320.html、スチュワードシップ…2019年11月18日付投信調査コラムNo.288「日本版スチュワードシップ・コード(SSC)の道」英国ではコーポレートガバナンスから派生、米国ではフィデューシャリー・デューティ(FD)強化の中で派生、米国では議決権行使重視で低コストだけのインデックス・ファンドに課題を与える」～ https://www.am.mf.g.jp/text/eshirase_191118.pdf)

➤「リスク資産を100年以上持ち続けることは、財務の健全性、通貨の信認維持の観点から、日本銀行としては容認できないのではないかと。例えば政府と調整した上で、**特別立法による政府保証付きの受け皿機関を日本銀行が設立し、そこにETFを移管**するとともに、その機関が発行する政府保証債を日本銀行が買い入れる形でバランスシートを健全化するような枠組みを、日本銀行は考える可能性がある。植田総裁の任期中にも、そうした**ETFの出口戦略の最終形**が示される可能性を見ておきたい。」(強調下線は当レポート筆者、2025年9月19日付野村総合研究所「日銀総裁記者会見:関税を巡る慎重な

勢は変わらずETF売却は100年以上かけて進めると説明」～ https://www.asahi.com/jp/media/ehsan/kinohi/20250919_3.html)

➤「日銀が今後、ほかの処分方法を検討していくとの見方もある。りそなアセットマネジメントの黒瀬浩一氏は『**最初は小さく売却を始め、これから増やす**だろう。年間1兆～2兆円までは市場で吸収できる。そうすれば数十年で売却しきれんかもしれない』と話す。(ニッセイ基礎研究所の)井出氏は『**最も可能性が高いのは、政府系金融機関に買い取ってもらうことだ**』として、**日銀から切り離す可能性**があるとする。」(強調下線は当レポート筆者、2025年9月20日付朝日新聞「緩和出口へ」100

年以上」植田日銀サプライズ、株高一変ETF売却決定」～ <https://www.asahi.com/articles/DAS1630599.html>)

日銀ETF売却100年計画について、公明党は日本版SWF(政府系ファンド)、国民民主党は売却20年計画、立憲民主党は日銀保有ETF活用法案(子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律案)を提案している。

➤2025年9月26日に公明党は『**日本版ソブリン・ウェルス・ファンド創設検討委員会**』(委員長=上田勇参院議員)は25日、衆院第2議員会館で会合を開き、**政府系ファンドの創設**を巡り、日本総合研究所調査部の河村小百合主席研究員を招いて、政府部門の資金運用の効率化や持続可能な財政運営を確保するための課題について講演を聴き、活発に意見を交わした。冒頭、上田委員長は『外貨準備や**日銀が保有するETF**などを含めて、どういった資金を運用していくのか議論していきたい』と述べた。河村氏は、現在の政府部門の資金運用には効率化の余地があると指摘。外貨準備や**日銀のETF**を念頭に運用効率の課題などを論点整理した上で、**海外の事例**を踏まえ見解を述べた。』としている(強調下線は当レポート筆者、2025年9月26日付公明党「資金運用、効率化に余地」～ <https://www.komei.or.jp/activities/p45011/>、日本総合研究所調査部の河村小百合主席研究員…日銀

出身で日米欧の中央銀行の政策についての専門家～ <https://www.jt.co.jp/staff/detail/awamuraosamu/>、海外の事例…2024年6月10日付投信調査コラムNo.403「日銀は香港の政府ETF「トラッカー・ファンド」の様に国民へETFを売却し、資産形成を推進するの?」～国際金融センター上位でもある香港の投信等資産運用動向」～ https://www.am.mf.g.jp/report/investigate/column_240610.pdf)

➤2025年9月22日に国民民主党は「日銀保有ETFの含み益33兆円を**高齢化対応の財源**に。株を下げない為に**100年かけて売る必要はなく、20年で**。金融資産も見て経済政策を考えられる”まともな人”がトップであるべき。』と言っている(強調下線は当レポート筆者、2025年9月22日付国民民主党・玉木雄一郎代表コメント… <https://x.com/Toshi9565706/status/197138996539212636>)。この日銀保有ETFの含み益33兆円は2025年3月末現在で、前述通り、2025年8月末45兆円、2025年9月26日49兆円ある為、国民民主党は、最新のデータを知る事により、ますます主張を強める可能性がある(国民民主党はかねてより「日銀保有のETF、REIT等を計画的に売却し、成長戦略と出口戦略を両

立させる」と言っていた…(2023年10月26日付国民民主党【参本会議】大塚代表代行が岸田総理の所信表明演説に対する代表質問で登壇)～ <https://new.kokumin.jp/news/detail/20231026/>、2024年10月28日付投信調査コラムNo.412「世界のETF～暗号資産(仮想通貨)ETF、ヘッジファンド保有ETF、アクティブETF、テーマ&パフパーETF～ 欧州のETF～債券ETF、アセットオーナー保有ETF～ 日本のETF～日銀保有ETF～」～ https://www.am.mf.g.jp/report/investigate/column_241028.pdf)

➤立憲民主党は2025年3月27日に「日銀保有ETF活用法案(子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律案)」を再び提出している(2024年6月13日に提出したが衆院解散に伴う審議未了で廃案、2024年10月28日付投信調査コラムNo.412「世界のETF～暗号資産(仮想通貨)ETF、ヘッジファンド保有ETF、アクティブETF、テーマ&パフパーETF～ 欧州のETF～債券ETF、アセットオーナー保有ETF～ 日本のETF～日銀保有ETF～」～ https://www.am.mf.g.jp/report/investigate/column_241028.pdf p.12)。「**立憲民主党の政務調査会**によると、国民民主党と維新に共同提出を呼び掛けたが、協力は得られなかった。」と言う(2025年3月27日付Bloomberg「立民が日銀保有ETF活用法案

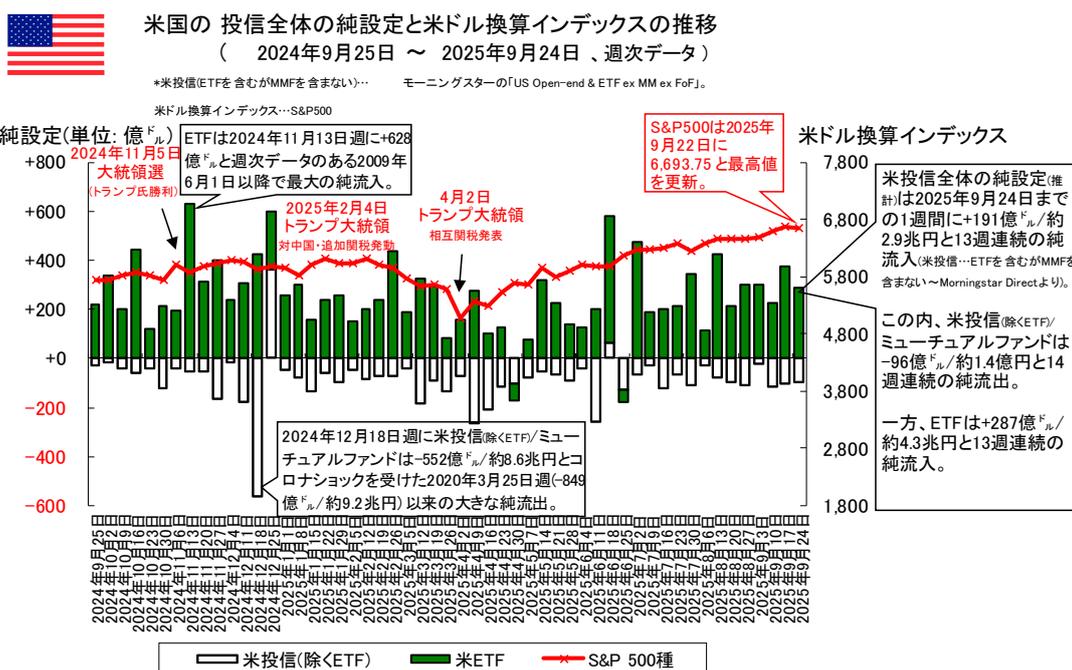
を再提出～高株無償化・子育て支援財源」～ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2025-03-27/STRGGR7A0FB406>)

●米国における日銀ETF売却発表前後の日本株投信日次純流出入～解約超加速は自民党総裁選前のポジション調整の可能性～、ゴールド/金ファンドの純流入加速！

米国籍投信の週次純設定/ファンド(マネー)フロー推計を見ると、2025年9月24日までの1週間に+191億^{ドル}/約2.9兆円と13週連続純流入(米投信…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。

米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは2025年9月24日までの1週間に-96億^{ドル}/約1.4億円と14週連続の純流出。米国籍ETFは2025年9月24日までの1週間に+287億^{ドル}/約4.3兆円と13週連続純流入 (継続的なミューチュアルファンドの純流出とETFの純流入には

ミューチュアルファンドからETFへのコンバージョン/転換も寄与…2023年11月27日付日本版ISAの道 その39「アクティブ運用型ETFが米国を中心に世界で急増！」～ https://www.ammf.jp/report/investigate/column_211127.pdf)



2025年9月24日週の投信全体(含むETF、除くMMF)純設定額を分類別に見る。

純流入1～3位は、米国超短期債、米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、商品・フォーカス。

純流出1～3位は、外国株大型グロース株、米国中型グロース株、トレーディングレバレッジ株式(ブル型)。

S&P500は2025年9月22日に6,693.75と最高値を更新。

純流入を詳細に見ると、債券が+150億^{ドル}、セクター株が+41億^{ドル}と純流入継続。日本株は小幅ながら2週ぶりの純流入。オルタナティブが+9億^{ドル}と純流入減速傾向。デジタル資産(ビットコイン等)は+6億^{ドル}と2週連続の純流入。

純流出を詳細に見ると、米国株が-37億^{ドル}と2週ぶり純流出。外国株が-17億^{ドル}と2週連続、**欧州株が-3億^{ドル}と3週連続純流出、インド株は2週ぶり純流出。**

米投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順)

2025-09-24現在

*ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
1	Ultrashort Bond	+8,791	+1,262	+14,574	455,934	米国超短期債
2	Large Blend	+5,240	-428	+8,768	5,543,821	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
3	Commodities Focused	+4,552	-310	+9,868	248,687	商品・フォーカス
4	Foreign Large Blend	+2,119	+1,861	+8,003	1,323,522	外国大型ブレンド株
5	Technology	+1,872	-425	+2,966	470,667	米国テクノロジー株
6	Diversified Emerging Mkts	+1,782	+744	+3,739	680,458	グローバル・エマージング株
7	Derivative Income	+1,370	+591	+3,681	157,346	デリバティブ・インカム
8	Industrials	+1,222	+1,860	+3,190	73,879	農業・インフラ・輸送等
9	Multisector Bond	+1,130	+1,395	+4,663	189,956	マルチセクター債
10	Intermediate Government	+988	+673	+2,688	244,808	米国中長期国債(4-6年)
17	Digital Assets	+586	+4,075	+4,914	197,850	デジタル資産(ビットコイン等)
50	Japan Stock	+52	-93	-36	39,914	日本株
109	Global Large-Stock Growth	-546	-288	-1,144	300,208	グローバル大型グロース株
110	Global Large-Stock Blend	-626	-2,777	-3,437	326,542	グローバル大型ブレンド株
111	Small Value	-908	+939	-432	251,210	米国小型バリュース株
112	Small Growth	-909	+177	-1,250	193,760	米国小型グロース株
113	Mid-Cap Value	-1,322	-301	-2,176	268,185	米国中型バリュース株
114	Mid-Cap Blend	-1,825	+2,606	+460	440,242	米国中型ブレンド株
115	Large Growth	-2,054	+7,668	-346	2,600,767	米国大型グロース株
116	Trading--Leveraged Equity	-2,699	-3,139	-8,690	127,188	トレーディングレバレッジ株式(ブル型)
117	Mid-Cap Growth	-3,037	-696	-2,531	346,390	米国中型グロース株
118	Foreign Large Growth	-4,153	-627	-5,590	357,222	外国株大型グロース株
全118分類の合計		+19,087	+27,155	+84,768	23,855,738	
指数名	リターン※ 最新週(%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)			
TOPIX (東証株価指数)	+0.79	+0.15	+3.31			
S&P500	+0.58	+1.08	+2.53			
MSCI ワールド	+0.30	+1.01	+2.42			

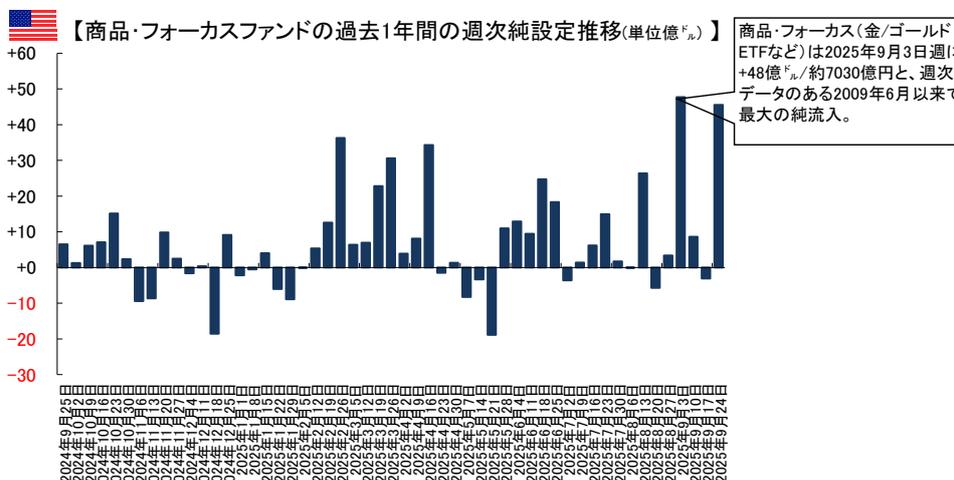
(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドルベース、配当込み指数)

商品・フォーカス(金/ゴールドETFなど)は9月24日週に+46億^{ドル}/約6,810億円と過去2番目に大きな純流入(2025年9月3日週に+48億^{ドル}/約7,030億円と、週次データのある2009年6月以来で最大の純流入)。

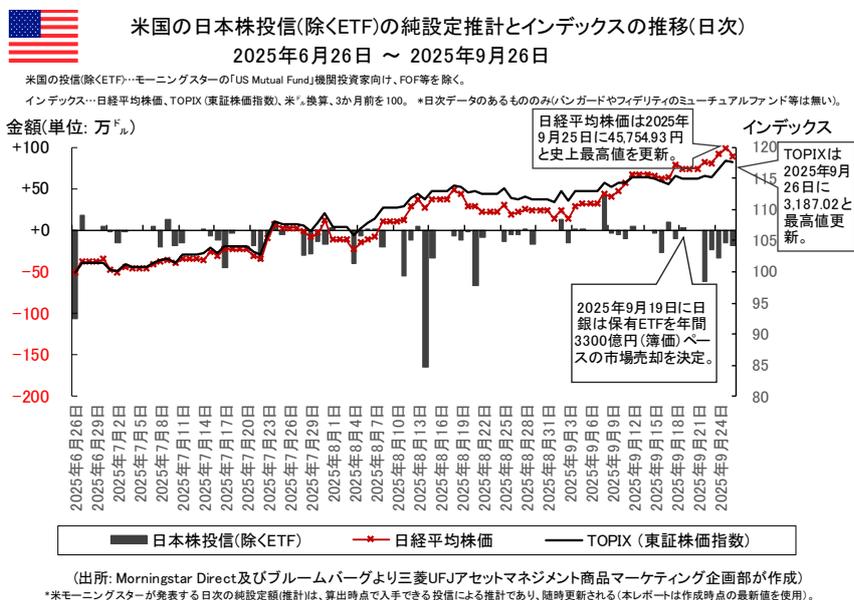
米国でも商品・フォーカスの純流入はゴールド/金による所が大きい。 **ゴールド/金は引き続き堅調な純流入で加速傾向にある**(2025年9月3日週+52億^{ドル}/約7,757億円〜過去最大→9月10日週+7億^{ドル}/約1,098億円→9月17日週-6億^{ドル}/約875億円→9月24日週+43億^{ドル}/約6,441億円、ゴールド/金については2025年5月12日付投信調査レポート

No.438「世界のゴールド/金ファンド月次動向(ETFを含む)月次流出入」～ https://www.am.ufj.co.jp/report/investigate/report_358312.pdf)



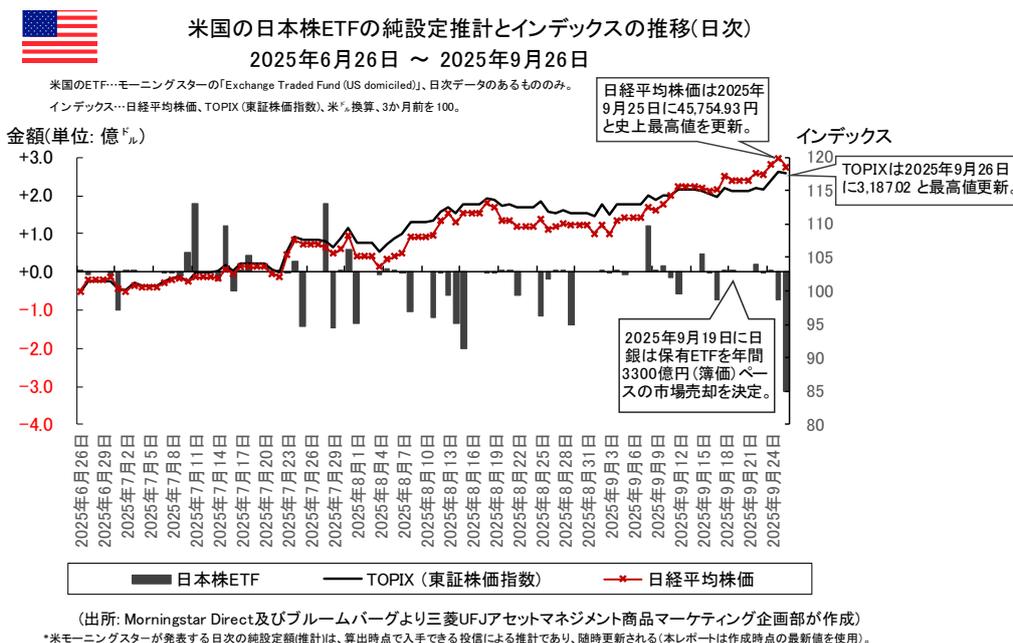
(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

日銀ETF売却発表前後の米国籍日本株投信日次純流出入を見る(日銀ETF売却発表は前述※1参照)。米国籍日本株投信(除くETF)は9月15日-4万ドル、9月16日-26万ドル、9月17日+10万ドル、9月18日-10万ドル、9月19日+4万ドル。9月19日(金)の**日銀ETF売却発表後は9月22日(月)-62万ドル、9月23日(火)-24万ドル、9月24日(水)-34万ドル、9月25日(木)-16万ドル、9月26日(金)-18万ドルと解約超が続いている**。ただ、米国籍投信(除くETF)/ミューチュアルファンド全体の長期解約超の傾向にも見える。



そして、米国籍日本株ETFは9月18日(木)+1.4万ドル、9月19日(金)+140万ドル、9月19日(金)の**日銀ETF売却発表後は9月23日(火)-1.6万ドルと解約超、9月25日(木)-7,150万ドル、9月26日(金)-3.1億ドルと解約超が加速している**。

9月19日(金)の日銀ETF売却/Bank of Japan's ETF sales と言うより、**10月4日(土)投開票の自民党総裁選/Japan's LDP Leadership Raceを前にしたポジション調整の為の解約**である可能性がある。時価総額153億ドルと米国籍日本株ファンド(ミューチュアルファンドとETF)で最大の「iシェアーズMSCIジャパンETF/iShares MSCI Japan ETF(EWJ)」は2025年9月26日(金)に2024年8月30日以来の大きな日次解約超(2025年8月は-11億ドルと2020年3月以来の大きな月次解約超だった)。



以上

三菱UFJアセットマネジメント【投信調査コラム】日本版ISAの道(及び投信調査レポートの一部)のバックナンバー:

「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料はNISA(少額投資非課税制度)など内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

■投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

本資料中で使用している指数について

■TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

■日経平均株価に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。

■MSCIヨーロッパ・インベスタブル・マーケット・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■FTSE International Limited(“FTSE”)©FTSE。“FTSE®”はロンドン証券取引所グループ会社の登録商標であり、FTSE International Limitedは許可を得て使用しています。FTSE指数、FTSE格付け、またはその両方におけるすべての権利は、FTSE、そのライセンサー、またはその両方に付与されます。FTSEおよびライセンサーは、FTSE指数、FTSE格付け、もしくはその両方、または内在するデータにおける誤りや省略に対して責任を負わないものとします。FTSEの書面による同意がない限り、FTSEデータの再配布は禁止します。

■S&P/ASX200指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P DJI)の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJアセットマネジメント株式会社に付与されています。S&P DJIは、S&P/ASX200指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会